FX MONTHLY MARKET REPORT ／ NOVEMBER 2026

USD / JPY 米ドル円 月次レポート

前月振り返りと2026年11月の相場展望

発行日	対象期間	通貨ペア	発行頻度
November 5, 2026	10月実績 ／ 11月展望	USD / JPY	Monthly

10月末レート（終値）

157.586

+0.11%　（10月月間騰落率）

10月高値	10月安値
158.943	156.072
FED金利	**BOJ金利**
3.75–4.00%	1.25%

今月のハイライト

- 10月は**157.41円でスタートし、156.07～158.94円のレンジで推移**した後、157.59円で引け、月間+0.11%とほぼ横ばいとなった
- **FOMCは10/27-28に政策金利を3.75%–4.00%で据え置き**（政策発表は日本時間10/29早朝）（賛成10対反対2）。反対した2名は0.25%の利上げを主張した
- **日銀は10/29-30に政策金利を1.25%で据え置き**（賛成8対反対1）。展望レポートでは基調的な物価上昇率が2%目標とおおむね整合的な水準にあるとの判断が示された
- 日米ともに据え置きとなり、計算上の日米金利差は前月と同水準。両中銀とも12月会合での追加利上げの可能性が意識される中、方向感の出にくい展開となった

11月 基本シナリオ レンジ

154 – 161円

11月はFed・日銀とも会合予定なし（次回はFOMC 12/8-9〈日本時間12/10早朝発表〉、日銀12/17-18）。米指標・要人発言が焦点

日米政策金利差

最大2.75pp

Fed上限4.00%－BOJ1.25%＝計算上の単純比較で最大2.75pp。前月と同水準

For Information Purposes Only

USD / JPY

2026年10月　相場振り返り

10月末レート
157.586
▲ +0.11%

始値	高値	安値	月間騰落
157.409	**158.943**	**156.072**	**+0.11%**
10月最初の取引日	月中最高値	月中最安値	+0.177円

10月の相場動向

10月のドル円は**157.41円でスタート**し、月中は**156.07〜158.94円**の比較的狭いレンジで推移した。10/27-28のFOMC（政策発表は日本時間10/29早朝）では政策金利が3.75%–4.00%で据え置かれたが、2名の参加者が0.25%の利上げを主張して反対し、声明ではインフレが依然高い水準にあるとの認識が示された。

10/29-30の日銀会合でも政策金利は1.25%で据え置かれた（賛成8対反対1）。展望レポートでは基調的な物価上昇率が2%の物価安定の目標とおおむね整合的な水準にあるとの判断が示され、植田総裁は12月会合での利上げの可能性を排除しなかったと報じられた。日米ともに12月会合での追加利上げの可能性が意識される中、ドル円は方向感を欠き、**157.59円で引け、月間+0.11%**となった。

主要イベントの影響

US FOMC 10月27〜28日 据え置き（日本時間10/29早朝発表）

- **政策金利を3.75%–4.00%で据え置き**（賛成10対反対2）。9月の利上げ後、初の据え置き
- 反対した2名の参加者は0.25%の利上げを主張。声明ではインフレが依然高い水準にあるとの認識が示された
- Warsh議長は物価目標への回帰を重視する姿勢を示したとされる一方、12月の判断について明確な示唆は避けたと報じられた。次回会合は12/8-9（政策発表は日本時間12/10早朝）

JP 日銀 10月29〜30日 据え置き

- **政策金利（無担保コール翌日物レートの誘導目標）を1.25%で据え置き**（賛成8対反対1）。1名の委員は1.50%への利上げを提案したが否決された
- 展望レポートでは、基調的な物価上昇率が2%の物価安定の目標とおおむね整合的な水準にあるとの判断が示され、2027年度の物価見通しが上方修正された
- 植田総裁は会見で12月会合での利上げの可能性を排除しなかったと報じられた。次回会合は12/17-18

10月の総括

10月はFed・日銀がともに政策金利を据え置いた。Fedでは2名が利上げを主張して反対し、日銀は基調的な物価上昇率が2%目標とおおむね整合的な水準にあると判断するなど、双方とも引き締め方向の姿勢がうかがえる内容となった。計算上の日米金利差（Fed上限4.00%－BOJ1.25%）は最大2.75ppと前月と同水準で、ドル円は月間+0.11%とほぼ横ばいで終えた。12月の両中銀会合に向けた観測の変化が、次の方向性を見極める材料となりうる。

USD / JPY

2026年11月　相場展望

10月末終値
157.586
10月末時点

11月の注目ポイント

11月は**Fed・日銀ともに金融政策会合が予定されていない**（次回はFOMCが12/8-9〈政策発表は日本時間12/10早朝〉、日銀が12/17-18）。このため、米国の雇用・インフレ指標や要人発言を通じた12月会合の利上げ観測の変化が、相場の主な材料となりやすいとみられる。市場では両中銀とも12月の追加利上げの可能性を意識する見方があり、どちらの観測がより強まるかがドル円の方向性を見極める上で注目される。11/3の米中間選挙では、主要メディアの予測で民主党が上下両院で過半数を確保する見通しと報じられており、議会構成の変化が財政・金利見通しに与える影響にも留意したい。

シナリオ別レンジ予測

強気	25%	米指標の上振れでFedの12月利上げ観測が一段と強まりドル高	159 – 163円
基本	50%	Fed・日銀とも会合がなく、指標・要人発言にらみのレンジ推移	154 – 161円
弱気	25%	日銀の12月利上げ観測の強まりや米指標の軟化でドル安	150 – 156円

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
日銀の12月利上げ観測の強まり	中	円高	基調物価の2%到達判断を受け、追加利上げ観測が強まれば円買いが優勢となりやすい
Fedの12月利上げ観測の強まり	中	円安	米指標が上振れすれば12月の利上げ観測が強まり、他の条件が一定であればドル高要因となりうる
米雇用・インフレ指標の動向	中	円安	指標が上振れすれば利上げ観測を通じてドルが下支えされる可能性
米中間選挙後の議会構成の変化	中	両方向	上下両院で民主党が過半数を確保する見通しと報じられた。財政・金利見通しの変化が為替の変動要因となる可能性。リスク回避局面では円買いが強まる場合がある

11月の見通し

基本シナリオは**154〜161円のレンジ**とみている。計算上の日米金利差（最大2.75pp）は引き続きドルに有利な水準にあり、下値を支える要因になりうる一方、日銀の追加利上げ観測が強まる局面では上値が抑えられやすい。11月は両中銀とも会合がなく、12月会合に向けた観測の変化を見極める月となりそうだ。

用語解説

Fed / FOMC
米国の中央銀行（連邦準備制度）とその政策決定機関。10/27-28会合（政策発表は日本時間10/29早朝）で3.75%–4.00%を据え置き（賛成10対反対2）。次回は12/8-9（政策発表は日本時間12/10早朝）。

日銀（BOJ）
日本銀行の略称。10/29-30会合で政策金利を1.25%で据え置き（賛成8対反対1）。次回は12/17-18。

政策金利 / 金利差
中央銀行が設定する基準金利。Fed上限4.00%とBOJ1.25%の差は計算上の単純比較で最大2.75pp（為替の方向を保証するものではない）。

SEP / ドットプロット
FOMCが四半期ごとに公表する経済見通し。9月版では2026年末の政策金利中央値が4.125%と示された。次回の公表は12月会合の予定。

展望レポート
日銀が年4回公表する「経済・物価情勢の展望」。10月版では基調的な物価上昇率が2%目標とおおむね整合的な水準にあるとの判断が示された。

キャリートレード / 巻き戻し
低金利通貨（円）で高金利通貨を運用し金利差収益を狙う取引。リスク回避時の一斉解消は円高要因となりやすい。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性などを保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようにお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。